

2015年10月から2018年10月までにロービジョンケアを受けた患者さんへ

臨床研究課題名：ロービジョンケアにおけるアセスメントシートを利用した支援の有用性

1. 研究について

ロービジョンケアとは、視覚に障害があるため生活に何らかの支障を来している人に対する医療的、教育的、職業的、社会的、福祉的、心理的などすべての支援の総称です。眼科医療領域のロービジョンケアでは、視覚補助具の選定などにより良く見るための手段の紹介や、福祉制度の利用方法、関連施設の情報提供など多岐にわたる支援をしています。これらのケアや情報をロービジョン者へと有効に繋ぐためには、ロービジョンケアを受けるあなたのニーズを正確に把握し、ケアを担当するスタッフと共有することが重要です。

一般的なニーズの聞き出し方には、口頭で自由口述したものを記録する方法と、アセスメントシート（事前評価表）を用いて行う方法があります。アセスメントシートは、こちらで用意した日常生活での困りごとなどについての質問に答えて頂くことで、質問者に影響されず誰にでも同じように質問が出来る評価表とされています。

当院ではロービジョンケア外来を開設した2015年10月より自由口述にて問診を行っていましたが、2017年7月から24項目の質問からなるアセスメントシートを用いた方法を導入しています。

本研究では、自由供述したものを記録する方法とアセスメントシートを用いて行った問診で、ロービジョンケアの内容が変化するかどうかの調査を行います。

2. 研究の目的

本研究では、ロービジョンケアを必要とし、当院のロービジョン外来に受診した方を対象とします。ニーズの聞き出し方として、自由供述したものを記録する方法とアセスメントシートを用いて行った問診で、ロービジョンケアの内容が変化するかどうかの調査を行います。

この研究を通して、今後のロービジョンケアにおけるニーズの把握の仕方を検討します。およその被験者数は150名程度を予定しています。

なお、この研究は、以下の研究者によって本院にて実施しています。

研究責任者： 眼科・医師 小椋 祐一郎

研究分担者： 診療技術部 滝谷 文枝 、大塩彩耶加

眼科・医師 吉田 宗徳

連絡先： 052-851-5511（代表）

3. 研究の方法

期間：2015年10月1日から2018年10月31日

研究内容：ロービジョンケアを行う前に、自由口述、又はアセスメントシートを使用して問診をとりニーズの把握をしました。その問診内容が本研究で必要なデータとなります。

被験者数：自由口述56名、アセスメントシート32名を予定しています。

4. この研究に参加しなくても不利益を受けることはありません

この臨床研究はあなたの自由意思によるものです。この研究に同意された後であっても、あなたの申し出により、いつでも参加を取りやめることができます。また、あなたが本研究への参加に同意されない場合や、途中で参加を取りやめる場合でも、決して不利益を受けることはありません。

5. あなたのプライバシーに係わる内容は保護されます

研究を通じて得られたあなたに係わる記録が学術雑誌や学会で発表されることがあります。しかし得られたデータが報告書などであなたのデータであると特定されることはありませんので、あなたのプライバシーに係わる情報（住所・氏名・電話番号など）は保護されます。また、この研究以外の目的で使用されることはありません。

6. 得られた医学情報の権利および利益相反について

本研究により予想される利害の衝突はないと考えています。本研究に関わる研究者は「厚生労働科学研修における利益相反 (Conflict of Interest : COI) の管理に関する指針」を遵守し、研究者の所属機関の規定に従って COI を管理しています。

7. この研究は必要な手続きを経て実施しています。

この研究は、公立大学法人 名古屋市立大学大学院 医学研究科長および名古屋市立大学病院長が設置する医学研究倫理審査委員会（所在地：名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1）において医学、歯学、薬学その他の医療又は臨床研究に関する専門家や専門以外の方々により倫理性や科学性が十分であるかどうかの審査を受け、実施することが承認されています。またこの委員会では、この研究が適正に実施されているか継続して審査を行います。

なお、本委員会にかかる規定等は、以下のホームページよりご確認いただくことができます。

名古屋市立大学病院 臨床研修開発支援センター ホームページ “患者の皆様へ”